

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。令和の時代も6年目となり、皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。地域の皆様に支えられ、釧路労災病院は今年も無事に新しい年を迎えることができました。誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が、法律上は季節性インフルエンザと同じように取り扱われる様になって、私どもの生活も徐々に以前のような状態に近づきつつあります。しかしながら、この未曾有のパンデミックを経験した我々は、例えばインターネットを利用した会議システムのように、新たな生活・仕事のスタイル手に入れました。そして、この春からは「医師の働き方改革」と称して、使命感だけで制限なく働き続けることが許されない時代を迎えます。そのためには、仕事の分担や移譲をこれまで以上に推進しなければなりません。当院では「急性期一般病床数を削減して、HCU(高度治療室)を新設する」ための工事が進められています。業務の選択と集中により、十分とは言い難いマンパワーでも医療の質を担保するための思い切った対策と考えております。



血液疾患に対する化学療法を安全に行うための無菌治療室の増床、より精細で確実な外科手術を可能にするロボット支援手術システムの導入など、診療機能の拡充を進めてきました。しかしながら、入れ物や道具がどんなに良くなっても、それを使う人間がいなければ何の役にも立ちません。医師だけでなく、看護師・薬剤師等々、様々な職種の医療従事者を育てていくことも当院の重要な使命と考えております。

釧路を含む地域医療の現状は、医師の高齢化と若い力の都会への流出によって危機的な状況にあります。利便性を追求し、ふるさとをないがしろにする風潮には、何とか抵抗しなければならないと感じております。しかし、それもある意味で大きな時代の流れなのかもしれません。まずできることを確実に実行し、お互いに手を携えながら地域医療を支え続ける所存です。本年も、さらなるご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

院長代理 小笠原和宏